

## 第1回 岡山市総合交通計画策定調査検討会

日時：平成28年10月25日（水）15:00～

場所：ピュアリティまきび「白鳥」

### 質疑の要旨（1／3）

	質問・意見	市回答
学識者	コンパクトとネットワークの観点から、総合交通計画はネットワークの実現を担うと考えますが、土地利用の観点からコンパクトシティをどのように実現し、本計画でどのように位置づけるのか。土地利用の計画としっかり連携していただきたい。	本計画と同時に立地適正化計画の検討を進めており、また、中心市街地の活性化に向けて、平成26年度より中心市街地活性化政策パッケージを進めている。これらの計画と連携し、コンパクトとネットワークの都市構造を実現する考えである。
	本計画の目標年次は何年を想定しているのか。	10年を想定している。
	平成21年に策定された岡山市都市交通戦略は平成30年为目标年次で、平成27年に中間評価を実施したところである。本計画はその後継となるのか。	市の交通計画としては、『交通基本計画』で理念や方向性が示されており、『都市交通戦略』がその実行戦略として位置付けられている。本計画はその2つを更新・拡充するものと考えている。『都市交通戦略』で位置づけた施策は引き継ぐが、計画としては、仕切り直しとしたい。
	都市交通戦略の中間評価において、事業目標が達成できたものと、できていないものもある。要因は分析しているのか。	達成できていない要因は、市の予算上の関係、施策メニューが多岐にわたることから、優先順位の問題等が挙げられる。その他に、交通事業者の協力が必要なものもあり、事業者側との調整に時間がかかっているものもある。今後整理の上、報告していきたい。
	事業プログラムで挙げられた施策の進捗状況について報告いただきたい。	事業の進捗状況は、作業部会での報告を考えた。
	ハード面の施策だけではなく、ソフト面の施策、たとえば中心市街地の歩行者が減少しているが、市民の歩く意識を醸成するような施策は取り組んでいるのか。	中心市街地の歩行者の減少は、モーターリゼーションの進展で、ドアツードアの生活スタイルが市民に定着したことが原因と考える。中心市街地の活性化は、コミュニティサイクル設置等の移動環境を整えるとともに、施策のパッケージでまちの魅力向上に取り組んでいる。

## 質疑の要旨（2／3）

	質問・意見	市回答
学識者	交通渋滞は、定常的に発生しているのか、または曜日や時間帯、特定の時期だけに発生しているのか、データ等から把握できているか。	現時点では把握できていない。平成 28 年度にバスロケーションシステムを導入する予定であり、そのデータを解析することで、曜日や時間帯による遅延状況の差異が把握できると考える。
	計画目標年次は 10 年とのことだが、自動車の自動運転等、新技術の内容をどの程度、本計画に盛り込むことを想定しているのか。	本計画では、現時点の新技術の動向を整理しておき、社会情勢の変化に応じて、本計画も 3 年、5 年等のタイミングで見直すことを想定している。
市民等	路面電車の岡山駅への乗り入れは実現するのか。岡山駅への乗入れだけでなく、延伸についても実現されることが望ましい。	岡山駅への乗入れは現在検討中である。路面電車の延伸のほかに、環状化に対する要望もあり、都市交通戦略においても、それらの施策は計画に含まれるため、他の施策と合わせて今後検討したい。
	路面電車の延伸等の施策は自動車交通量の減少にも繋がると考える。その様な視点からも検討いただきたい。	路面電車、バス、これらの活用方策を検討するとともに、市内の公共交通不便地域のケアについても検討し、計画に盛り込む考えである。
	市全域だけではなく、各区の人口や高齢化率の将来の動向を考慮して計画を検討していただきたい。	第六次総合計画の中期前期計画で、区別計画を検討しているところであり、その結果を本計画に反映する考えである。
交通事業者	本計画は、地域公共交通網形成計画および地域公共交通再編実施計画に代わるものになるのか。	これらの計画については、交通事業者の合意が得られれば、移行することも念頭に検討していきたい。
	作業部会と当検討会の違いは何か。	作業部会では、本計画に基づく事業展開に向けて、各施策の実現性について協議する。
経済界	超小型モビリティ『オカモビ』などの新技術の動向は新たなビジネスの創出にもつながるが、既存の交通事業者と連携する必要がある。	10 月 24 日から『オカモビ』の実証実験を開始した。2 ヶ月ほど実施し、利用状況や利用者意見をもとに、シェア型交通の展開を検討していく考えである。
	市内の事業者等の意向調査においては、商工会も協力できると考える。	—
観光関連	外国人観光客の二次交通利用（空港や鉄道駅等から目的地までの交通手段）に対する施策を検討しているのか。	案内の多言語化が挙げられる。利用時のわかりやすさが重要と考え、案内誘導の方法を検討したい。
	観光形態として、岡山市だけではなく、倉敷市等を含めた周遊観光が考えられるが、周辺自治体との連携はどうか。	周辺自治体との連携については今後検討したい。

質疑の要旨（3／3）

	質問・意見	市回答
国土交通省	中心市街地を通行する自動車を規制するような政策は、本計画に取り入れるのか。	自動車の規制をかけることは困難と考える。 ただし、都市交通戦略において位置付けた中心市街地のトラフィックゾーンを構築するため、コミュニティ道路のような、自動車が通行しにくく、人が歩きやすい道づくりを進めていきたいと考えている。
	計画目標年次は10年とのことだが、20年、30年後の将来像は検討しないのか。	本計画は総合計画を上位計画として、都市計画マスタープランや検討中の立地適正化計画等と関連する計画となるため10年としている。ご指摘の20年、30年後の将来像は、新総合計画等で検討すべき内容と考える。
	本計画の期間として想定している10年は総合計画に合わせた10年なのか、策定後の10年なのか。	本計画策定から10年を想定している。
	吉備線 LRT 化や路面電車の乗入れ等の政策について、他で検討されている施策を本計画にどのように盛り込んでいくのか。	都市交通戦略等で検討した施策は、本計画に位置づけていきたい。